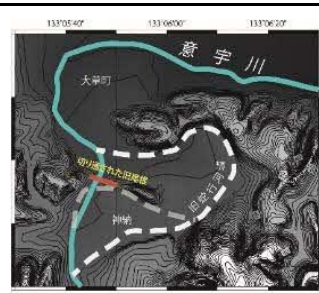


地質サイトカード

カードNo.		C-⑥-8	通しNo.	50	作成日	2024/7/19	
サイト名		ひよし きゅうだこうかどう 日吉の切り通しと旧蛇行河道					
基本情報	エリア	南部丘陵地 探訪サイト					
	区分	☒ 地質・地形	☐ 生態	☒ 文化			
	利用価値	☒ 科学	☒ 教育	☐ 観光・ツアー			
	所在地	松江市八雲町日吉					
	アクセス	山陰道 松江東ICから約5km、約10分。日吉の切り通し。					
	周辺施設	☒ トイレ ☒ 売店 ☐ 飲食店 ☒ 駐車場(20台程度:日吉親水公園など) ☐ ウォーキングコース ☐ サイクリングコース ☒ 観光施設(日吉親水公園)					
	看板整備	現地、日吉ふれあい会館、日吉親水公園に関連看板あり					
	留意点	一般財団法人人間自然科学研究所を中心に普及・啓蒙活動が行われている。また、風土記の丘のモデルコースにも組み込まれている。					
位置情報		d-3					
保護・保全	法規制・関連団体等						
	保全メモ						
サイトの解説	みどころ	江戸時代に治水目的で開削された意宇川の切り通し。					
	地質・地形	この地域には、約1400万年前の大森層下部を構成する普通輝石角閃石デイサイト溶岩が分布する。日吉の切り通しは、意宇川の氾濫を防ぐため、このデイサイト溶岩からなる細尾根を幅30m・高さ20mにわたって開削し、蛇行河道を短絡したものである。開削部位は滝となり、デイサイト溶岩が良好に露出している。また、切り通しの開削により放棄された旧蛇行河道の地形が約1.7kmにわたって明瞭に残っている。大地の歴史と人の暮らし、自然災害とのつながりを物語るジオサイトである。					
	歴史・文化 生物・生態等	意宇川の川違えと切り通しの開削は、松江藩祖直政が治世する1650(慶安3)年、村の大百姓、初代周藤彌兵衛家正の懇願で藩の事業として始まる。工事は3年の歳月をかけて完了したが、二年後の1654(承応3)年に再び襲った洪水で堤防はあつけなく決壊した。 原因は切り通しの幅が狭かったことだ。家正は藩に再度切り通しの拡大を懇願するが、財政難を理由に再開されることはなかった。その後、村は幾度も水害に悩まされ続けることになる。 家正の工事が水泡に帰してから52年。家正の孫、彌兵衛良利(りょうせつ)は藩の支援をあきらめ、私財を投じて切り通しの拡大を決意、祖父の志を貫くことになる。1706(宝永3)年、良利56歳の時だった。 以後、42年間にわたり、良利は自ら槌(つち)と鑿(のみ)で剣山の岩盤と格闘、ついに念願の切り通しの拡張を完成させる。歴史に残る周藤彌兵衛と日吉切り通し伝説の始まりである。良利の死後、六代目兵蔵も切り通しの開削に心血を注ぎ、周藤家三代の偉業として現在に伝わる。					
写真・図等							
参考文献		鹿野和彦ほか(1994) 松江地域の地質、吉川篤美(1987)農業土木学会誌, 5, 479-481.					